

団体名：(財)現代人形劇センター

事業名：全国の聾学校における人形劇による地震防災教育の実施

#### < 総合評価 >

全国の聾学校において、聾の子どもたちに地震・津波などに関する正確な情報と防災知識を持ってもらうため、防災人形劇「稲むらの火」の公演と、災害に合った際の具体的な対処方法などについて防災教育を行っていることは評価できる。

聾の子ども等障害者は地域住民や防災関係者の協力が必要になることから人形劇の公演に参加してもらうことが望まれる。

#### < 会計評価 >

関係書類、証拠書類、会計帳簿等の整備状況は概ね良好である。

#### < 事業プロセスの評価 >

##### < すぐれている点 >

- ・全国の聾学校で人形劇による地震防災教育を3年間で実施することについて全国聾学校長会等を通じ協力を依頼するとともに人形劇に係る脚本制作、演出、舞台美術及び人形制作等の初年度の位置づけが具体化されている。
- ・プロの脚本家、演出家が臨場感ある人形劇を演出し、聾者と聴者が共演するプロの人形劇団が聾者の特質を理解し、手話表現、打楽器やプラカードを使った人形劇を行うことにより聾の子どもが理解しやすいように工夫している。
- ・人形劇後に地震・津波災害のほか洪水・火災などの防災教育も行い災害に合ったときに身を守るため重要な情報収集、防災道具使用など具体的な対処方法を教えている。また、高等部の生徒の理解度に合わせた防災教育ができるようにしている。

##### < 改善にむけての課題 >

- ・聾者等障害者は、防災関係者や地域住民の協力が日常及び災害時に必要になることから、人形劇の公演に参加してもらい、地域関係者に聾者等障害者に対する防災意識を持ってもらうことが望まれる。

#### < 事業成果の評価 >

##### < すぐれている点 >

- ・学校担当教諭等へのアンケートにより、生徒の人形劇に対する反応や地震等災害に対する意識の変化・理解度が確認され防災意識が喚起されていることが確認されている。
- ・人形劇の公演に参加した保護者から子どもが目を見て学習することが実感できたことや家で災害について話し合うきっかけができたという反響があった。
- ・自治体が開催した「こども防災塾」において公演要請を受け、防災人形劇「稲むらの火」の公演を行っている。

##### < 改善にむけての課題 >

- ・聾者に理解のある地域防災の取組が望まれるが、地域の関係者の参加がまちまちとなっている。

#### < 資金効率 >

決算額が予算額を下回った主な理由は、解説製作を映像処理から絵幕処理にしたことや宿泊を控え帰団したため経費が減額したことなどによるものであり、事業費総額に対する資金効率の観点からは、概ね効率的に使用されているものと思われる。

#### < 今後の方向性 >

聾者等障害者は、地域住民や防災関係者の協力が必要になることから人形劇公演に参加してもらうことが望まれる。